

豚の簡易発情誘起技術

福島県畜産試験場企画管理部
平成15年福島県畜産試験場試験成績概要

1 部門名

畜産一豚一畜産繁殖
分類コード 07-03-38000000

2 担当者

本多 巖・坂本秀樹・丹治敏夫

3 要旨

豚の受精卵移植や人工授精を行うには、人為的に発情を誘起させる必要がある。しかし、発情誘起法としては、離乳日をそろえる、人工流産、性腺刺激ホルモン投与などがあるが、簡易かつ確実な方法は確立されていない。一方、牛では腔内留置型黄体ホルモン製剤(CIDR)を活用した発情誘起方法が確立・普及している。そこで、腔形状が豚と類似している緬山羊に用いられている緬山羊用CIDRを繁殖母豚や離乳母豚に応用し、豚の人為的な発情誘起への可能性および有効性について検討した。

- (1) CIDRの有効留置個数の検討では、性周期に関係なく繁殖母豚の腔内に緬山羊用CIDR1～2個を7日間留置し、CIDR除去時にプロスタグランジン(PG)3mlを投与する方法が、CIDR2個を7日間留置するだけの方法に比較して高率に発情が誘起された。よって、CIDRとPGの併用が発情誘起に有効であり、CIDRの留置個数は1個でも十分な効果を示した。また、繁殖母豚におけるCIDR1個とPGの併用による発情誘起率は60%、CIDR除去後の発情誘起平均日数は 6.7 ± 2.1 日であった。
- (2) 離乳母豚では、離乳時にCIDR1個を留置し、繁殖母豚と同様に処理したところ、発情誘起率が60%、CIDR除去後の発情誘起平均日数が 6.7 ± 2.1 日であった。

以上のことから、豚の発情誘起法としてCIDRとPGの併用が有効である可能性が示唆された。また、1頭あたりの発情誘起に要する処置経費は、1,000円程度である。

4 その他の資料等

Suganoら(2001) J. Mamm. Ova. Res. 18:119-122.
菅野ほか(2001) 第76回日本養豚学会大会講演要旨集.
本多ほか(2003) 第10回日本胚移植研究会大会講演要旨集.
菅野ら(2003) 臨床獣医. 21:30-33.